
沈黙の15分ー哀 s i d eー

哀 l o v e コナン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

沈黙の15分―哀side―

【Nコード】

N4630BA

【作者名】

哀loveコナン

【あらすじ】

哀ちゃんバージョンも考えました…。

私は彼が寝ている部屋をそっと覗いた……。

見ると、彼は起き上がって……痛がりながら、肩をさすっていた……。

私は静かに部屋に入り……彼に声をかける……。

「工藤くん？」

私の声にハッとして、彼の瞳は私の姿を映し出した……。

「灰原……」

肩を押さえながら、ゆっくりと私の方を振り向く彼に近寄って言った……。

「まったく、無茶すぎるなのよ……」

「仕方ねーだろ……ああするしかなかったんだから……」

彼の行動は……結果的には、多勢の人の命を救った……。

その反対に彼の身近にいる人達は……彼の命を極限まで祈り、必死に探していた……。

無茶な行動は、今に始まった事ではないけど、今回ばかりは……彼の命に安心させられた……。

彼の、痛がっている肩を見つめて心配になる。

「起きてて大丈夫なの??」

「やっと身体を起こしたんだけど…まだ痛くてな…」

「だったら、もう少し寝てなさい…明日帰れなくても、知らないわよ…」

気遣ってるつもりだけど、口から出るのは素直じゃない素っ気ない言葉……。

彼もそんな私の思いを分かっていると言わんばかりに…”フツ”と笑う…。

「ああ、そうする…」

私は彼の身体を支えながら、ゆっくりと身体を倒した…。

まだ、少し痛む身体に…彼の顔はしかめられた…。

まあ、鎮痛剤も打ってもらったし…明日には引いてるから、心配はないと思うけど…。

彼の寝顔を見ながら、私は微笑む…。

「本当、しぶとくてよかったわ…」

結局、私の口から出る言葉は…こんなものなのよね…。

翌朝、すっかり痛みもなくなり…彼は元気な笑顔を振りまいていた…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4630ba/>

沈黙の15分ー哀sideー

2012年1月12日19時01分発行